

**認知症医療の実態調査  
最終報告書（概要）**

令和 8 年 4 月  
東京都

# I 認知症医療の実態調査の概要

## 1 調査の目的

認知症専門病院の検討に向け、都内の認知症医療の実態を把握するため、医療機関、介護サービス事業者、区市町村及び認知症の当事者・家族への調査を行う。

## 2 調査の概要

### (1) 調査の対象

病院、認知症疾患医療センター、介護サービス事業者（特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、認知症高齢者グループホーム（認知症対応型共同生活介護事業所）、居宅介護支援事業所）、区市町村及び認知症の当事者・家族

### (2) 調査方法・回収状況

#### ア. 病院・認知症疾患医療センター・介護サービス事業者・区市町村調査

調査対象に調査票等を郵送し、WEB 回答・WEB 回収

#### イ. 当事者・家族調査

調査票等を 10 部ずつ協力機関（関係団体 2 か所及び地域拠点型認知症疾患医療センター 1 2 か所）へ郵送し、調査対象者に配布。自記式回答・郵送回収／WEB 回答・WEB 回収

#### ウ. 回収状況

調査対象種別	調査手法	発送数	回収数	回収率
病院	郵送配布・WEB 回収	586 件	287 件	49.0%
認知症疾患医療センター（病院）	郵送配布・WEB 回収	41 件	41 件	100%
認知症疾患医療センター（病院以外）	郵送配布・WEB 回収	11 件	11 件	100%
特別養護老人ホーム	郵送配布・WEB 回収	36 件	25 件	69.4%
有料老人ホーム	郵送配布・WEB 回収	36 件	16 件	44.4%
認知症高齢者グループホーム （認知症対応型共同生活介護事業所）	郵送配布・WEB 回収	36 件	22 件	61.1%
居宅介護支援事業所	郵送配布・WEB 回収	153 件	95 件	62.1%
区市町村	郵送配布・WEB 回収	62 件	62 件	100%
当事者・家族	郵送配布・郵送/WEB 回収	140 件	36 件	25.7%

### (3) 注意事項

ア 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出している。

イ 単回答形式の設問は「総回答数＝回答者数」だが、四捨五入の関係で、全選択肢の回答比率の合計が 100.0%にならない場合がある。

ウ 複数回答形式の設問は「総回答数≧回答者数」のため、選択肢の回答比率の合計は「総回答数＝回答者数」でない限り 100.0%を超える。

エ 図表中の「n」とは、その設問への回答者数を表す。

オ 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いることがある。

### 3 調査結果の概要

#### (1) 病院調査

ア 認知症を有している患者（疑いも含む。以下同様。）の入院受入れについて伺います。

(ア) 認知症を有している患者の人数について

問1 認知症を有している患者の人数をご回答ください。

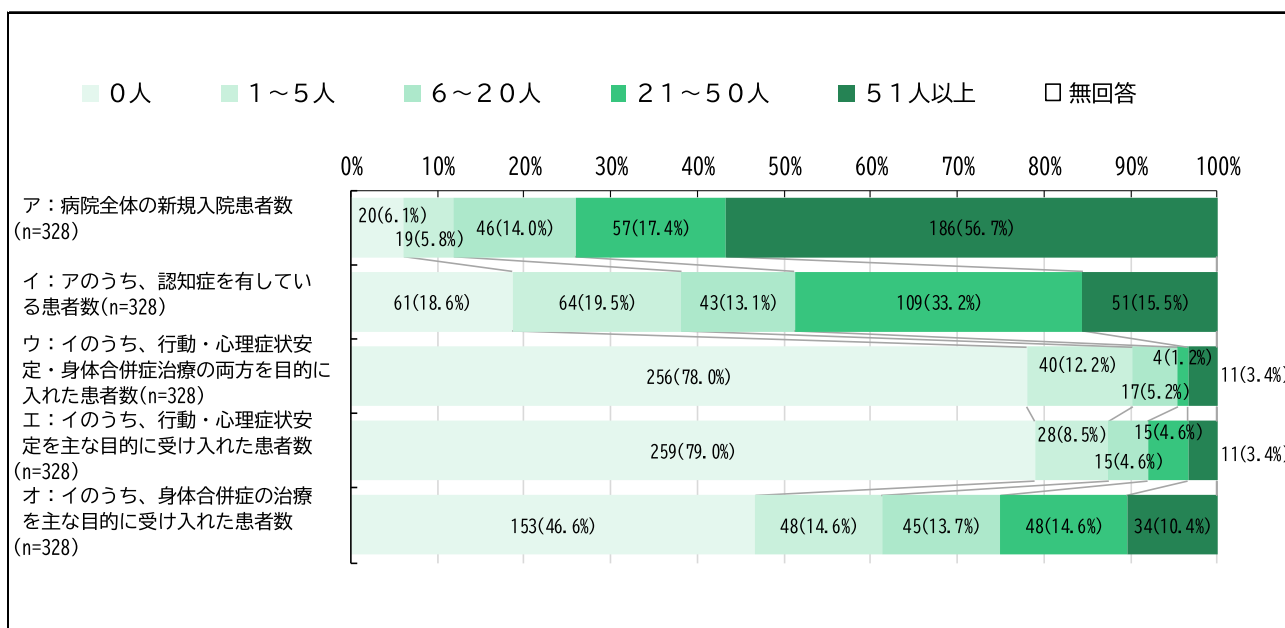
ア：病院全体の新規入院患者数では「51人以上」(56.7%)が最も高く、次いで、「21～50人以上」(17.4%)となっている。

イ：アのうち、認知症を有している患者数では「21～50人以上」(33.2%)が最も高くなっている。

ウ：イのうち、行動・心理症状安定・身体合併症治療の両方を目的に受け入れた患者数では「0人」(78.0%)が最も高くなっている。

エ：イのうち、行動・心理症状安定を主な目的に受け入れた患者数では「0人」(79.0%)が最も高くなっている。

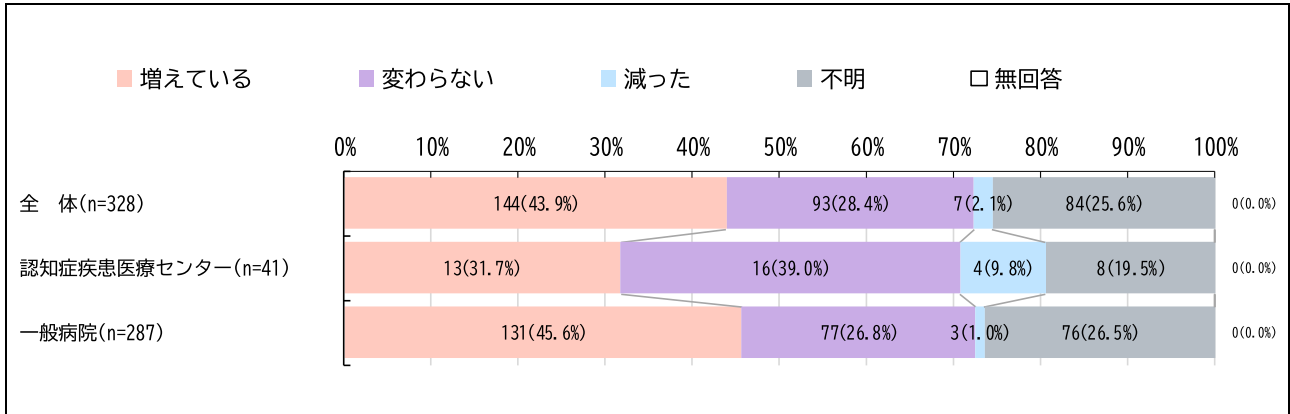
オ：イのうち、身体合併症の治療を主な目的に受け入れた患者数では「0人」(46.6%)が最も高くなっている。



(イ) 行動・心理症状が強い認知症患者について

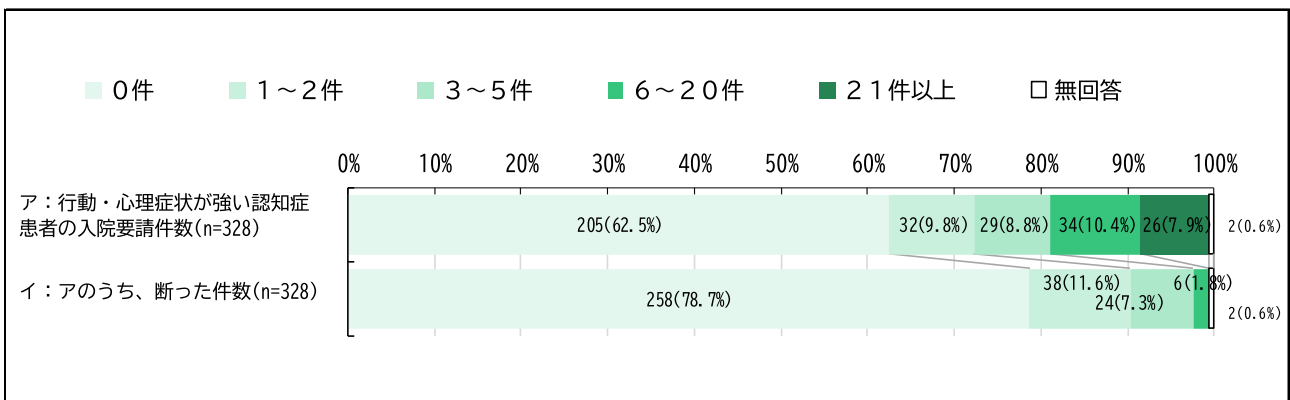
問3 以前（5～10年程度）と比べて、行動・心理症状が強い認知症患者の入院要請は増えていますか。  
（1つに〇）

全体では、「増えている」（43.9%）が最も高く、続いて、「変わらない」（28.4%）、「不明」（25.6%）の順に高くなっている。



問4 行動・心理症状が強い認知症患者の入院要請件数と断った件数をご回答ください。  
なお、0件の場合でも、0とご回答ください。（2025年6月実績をご回答ください。）

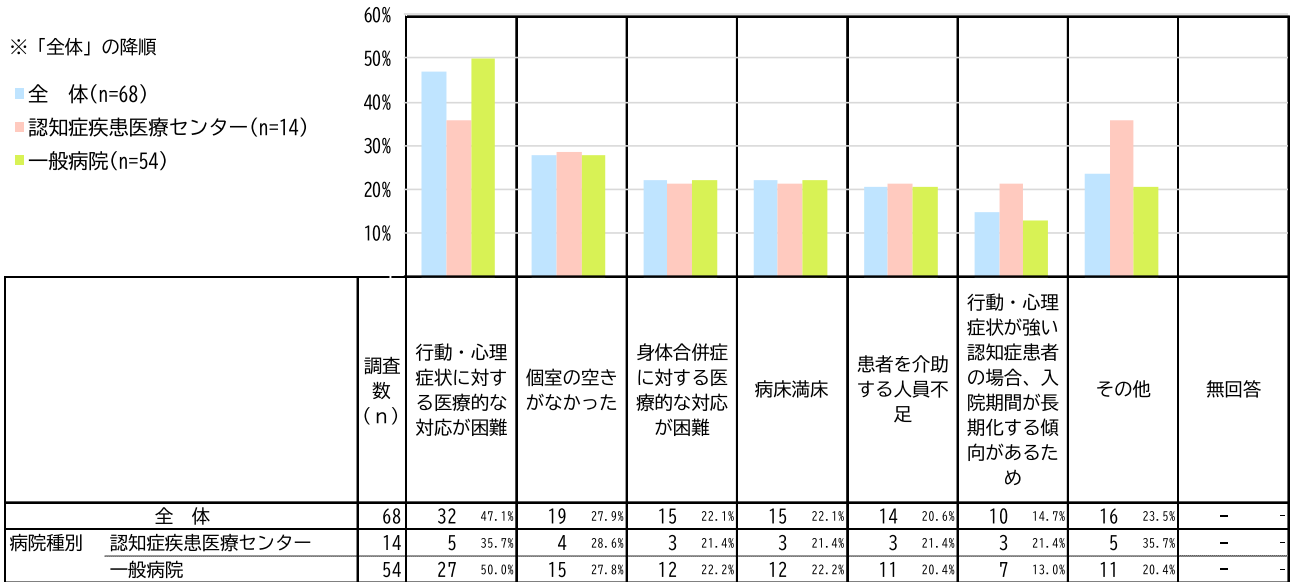
ア：行動・心理症状が強い認知症患者の入院要請件数では「0件」（62.5%）が最も高くなっている。  
イ：アのうち、断った件数では「0件」（78.7%）が最も高くなっている。



問4 「イ 入院要請のうち断った件数」で「1件」以上と回答した場合のみお答えください。

問4-1 断った主な理由をご回答ください。(あてはまるもの全てに○)

「行動・心理症状に対する医療的な対応が困難」(47.1%)が最も高く、次いで、「個室の空きがなかった」(27.9%)となっている。



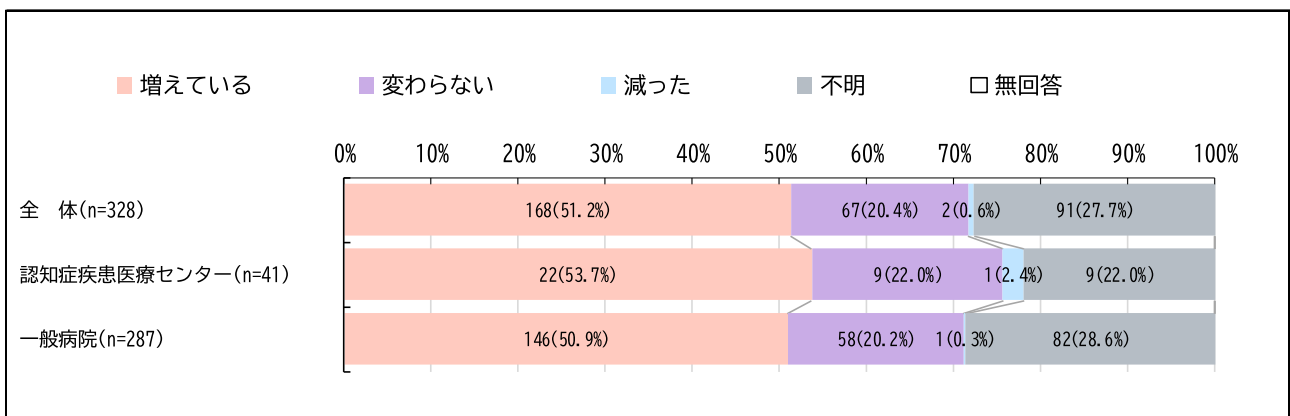
【表の凡例】  
 比較の対象となる項目：n=30以上  
 全体+10ポイント以上 ■ 全体+5ポイント以上 ■ 全体-5ポイント以下 ■ 全体-10ポイント以下 ■

(ウ) 身体合併症<sup>※</sup>を有する認知症患者について

※ 対応が必要な脳血管疾患・心疾患・呼吸器疾患・感染症・骨折など

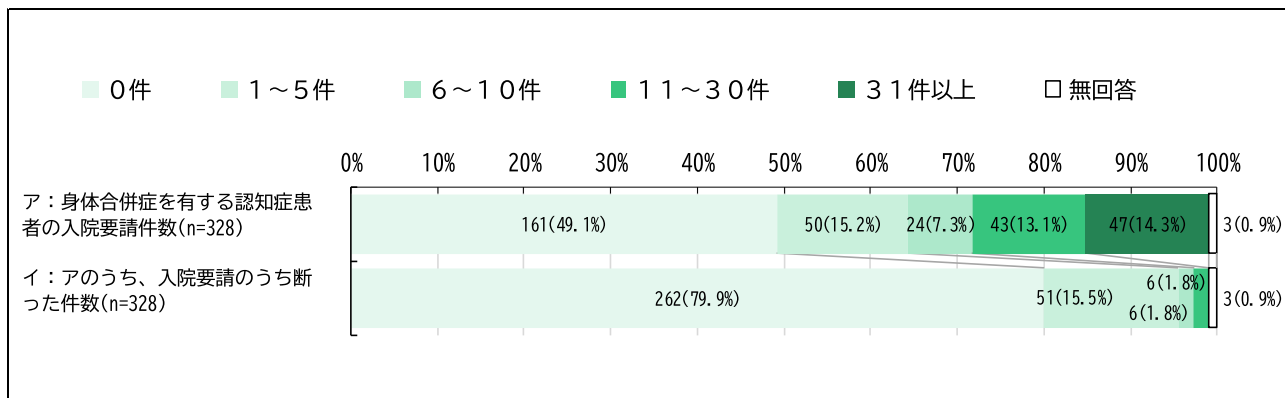
問7 以前(5~10年程度)と比べて、身体合併症を有する認知症患者の入院要請は増えていますか。(1つに○)

全体では、「増えている」(51.2%)が最も高く、続いて、「不明」(27.7%)、「変わらない」(20.4%)の順に高くなっている。



問8 身体合併症を有する認知症患者の入院要請件数と断った件数をご回答ください。  
 なお、0件の場合でも、0とご回答ください。(2025年6月実績をご回答ください。)

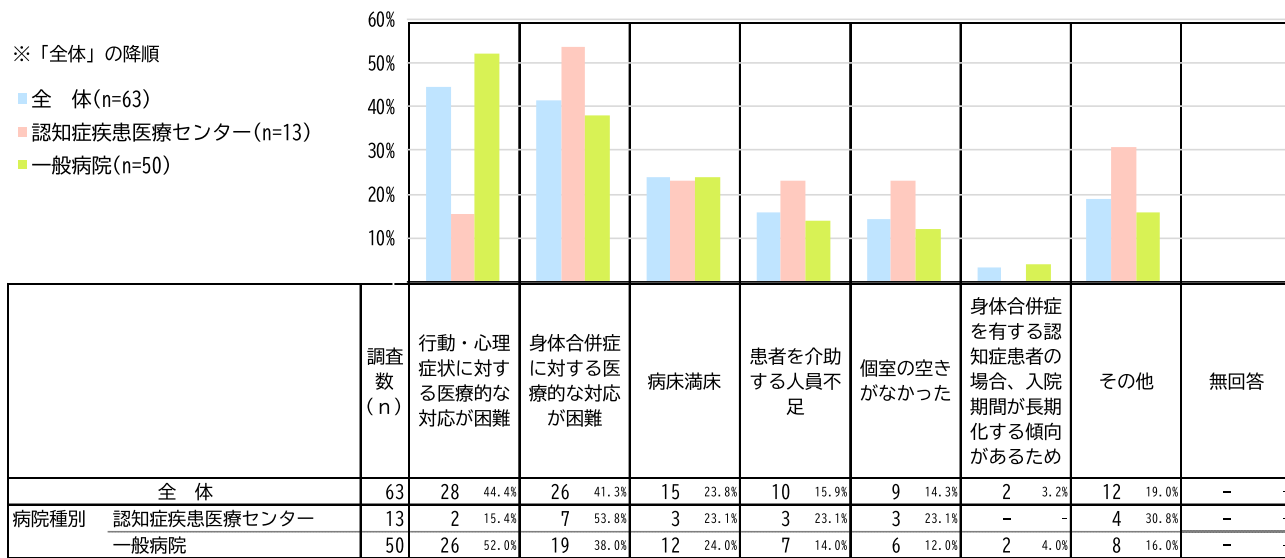
ア：身体合併症を有する認知症患者の入院要請件数では「0件」(49.1%)が最も高くなっている。  
 イ：アのうち、入院要請のうち断った件数では「0件」(79.9%)が最も高くなっている。



問8 「イ 入院要請のうち断った件数」で「1件」以上と回答した場合のみお答えください。

問8-1 断った主な理由をご記入ください。(あてはまるもの全てに○)

「行動・心理症状に対する医療的な対応が困難」(44.4%)が最も高く、次いで、「身体合併症に対する医療的な対応が困難」(41.3%)となっている。



【表の凡例】  
 比較の対象となる項目：n = 30以上  
 全体+10ポイント以上 ■ 全体+5ポイント以上 ■ 全体-5ポイント以下 ■ 全体-10ポイント以下 ■

認知症疾患医療センターの病院のみが回答

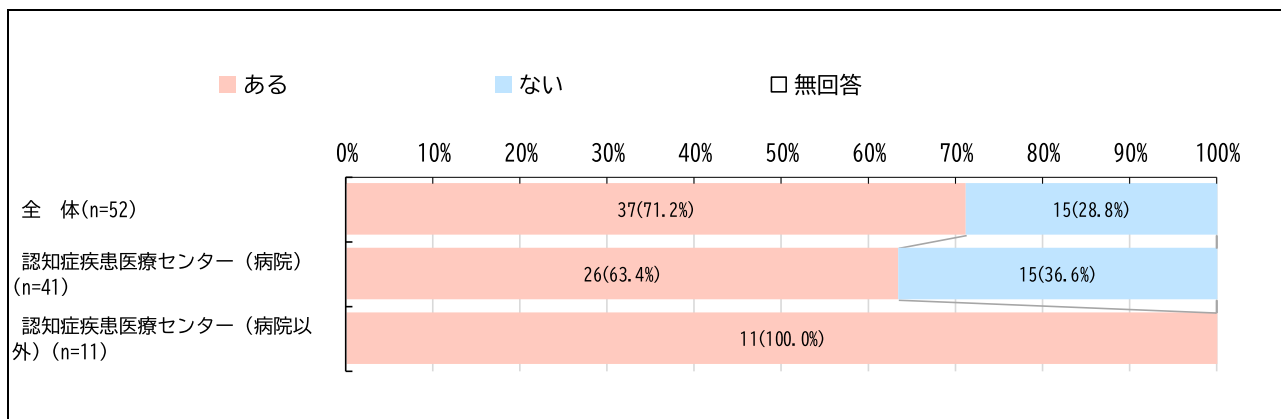
イ 認知症を有している患者の入院先の調整に係る地域の状況について伺います。

(ア) 貴センターが他院へ入院調整を行うとき

問12 認知症を有している患者の受入を依頼する際、受入調整に困ったことはありますか。

(1つに○)

「ある」(71.2%)が「ない」(28.8%)よりも高くなっている。



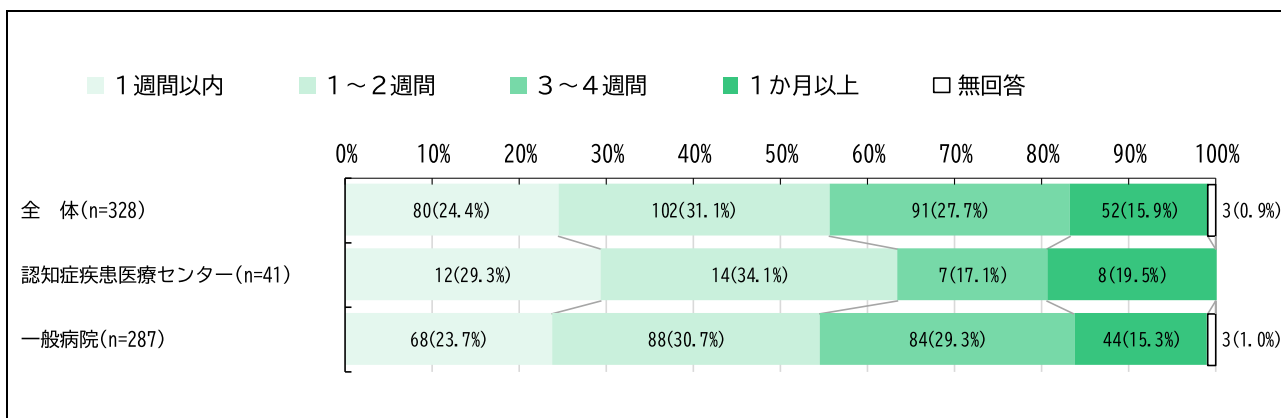
※認知症疾患医療センター(病院以外)調査でも同様の設問があり、本グラフ(全体)では合算して集計している。

すべての病院が回答

ウ 認知症を有している患者の転退院調整について伺います。

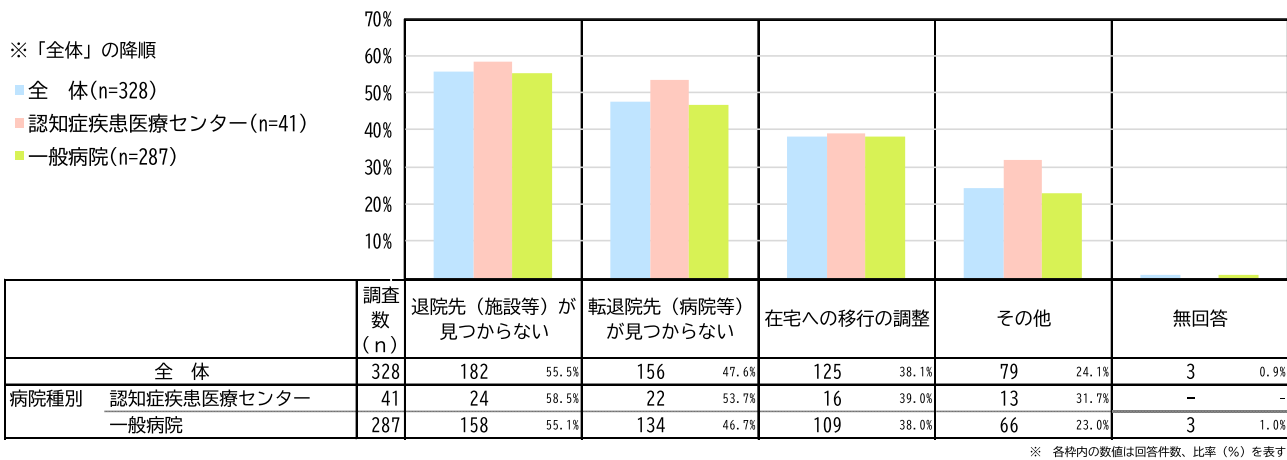
問19 認知症を有しない患者と比べて、認知症を有している患者の転退院調整に通常どれくらい多くの日数を要していますか。(1つに○)

全体では、「1~2週間」(31.1%)が最も高く、続いて、「3~4週間」(27.7%)、「1週間以内」(24.4%)、「1か月以上」(15.9%)の順に高くなっている



問20 転退院調整により多くの日数を要する理由をご回答ください。

「退院先（施設等）が見つからない」（55.5%）が最も高く、次いで、「転退院先（病院等）が見つからない」（47.6%）、「在宅への移行の調整」（38.1%）となっている。



【表の凡例】  
 比較の対象となる項目：n = 30以上  
 全体+10ポイント以上 ■ 全体+5ポイント以上 ■ 全体-5ポイント以下 ■ 全体-10ポイント以下 ■

（2）認知症疾患医療センター（病院以外）調査

ア 認知症を有している患者の入院先の調整に係る地域の状況について伺います。

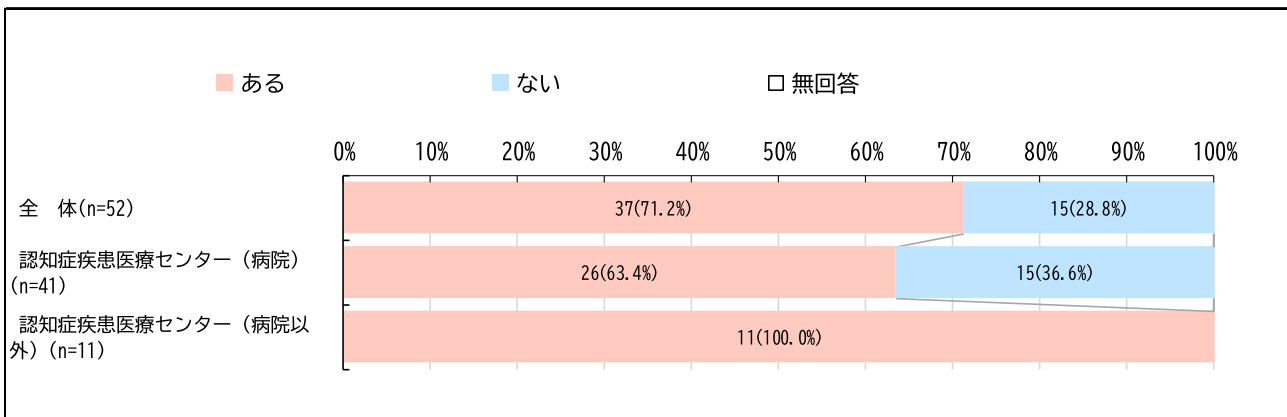
（ア）貴センターが他院へ入院調整を行うとき

問4 認知症を有している患者の受入を依頼する際、受入調整に困ったことはありますか。（1つに○）

「ある」（71.2%）が「ない」（28.8%）よりも高くなっている。

認知症疾患医療センター（病院）では、「ある」（63.4%）、認知症疾患医療センター（病院以外）でも、「ある」（100.0%）が最も高くなっている。

理由として、「身体合併症や行動・心理症状への対応が困難」、「ベッドに空きがない」などが挙げられている。



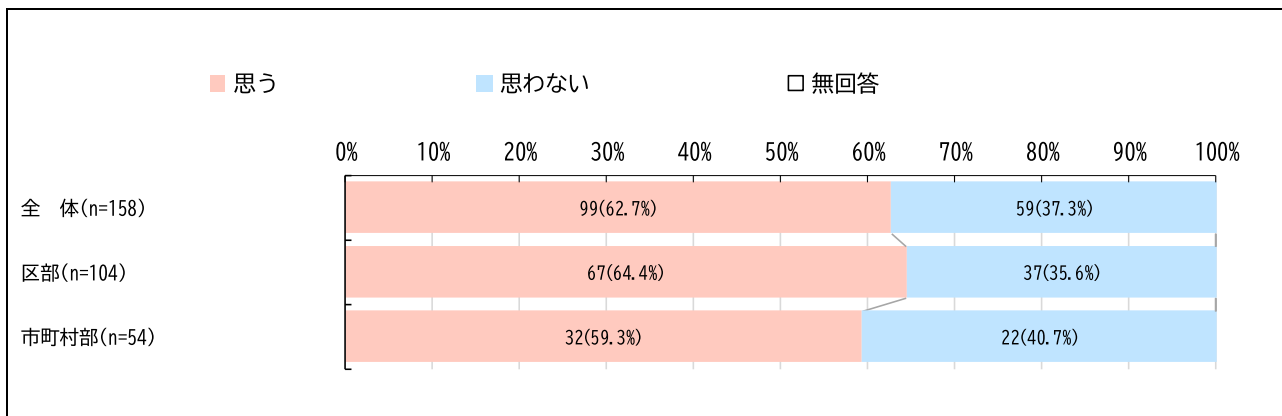
※病院調査でも同様の設問（認知症疾患医療センターである病院のみが回答）があり、本グラフでは合算して集計している。

### (3) 施設・居住系サービス・居宅介護支援事業所調査

#### ア 認知症のある人の入院先の調整に係る地域の状況について伺います。

問1 円滑に入院が行われていると思いますか。(1つに○)

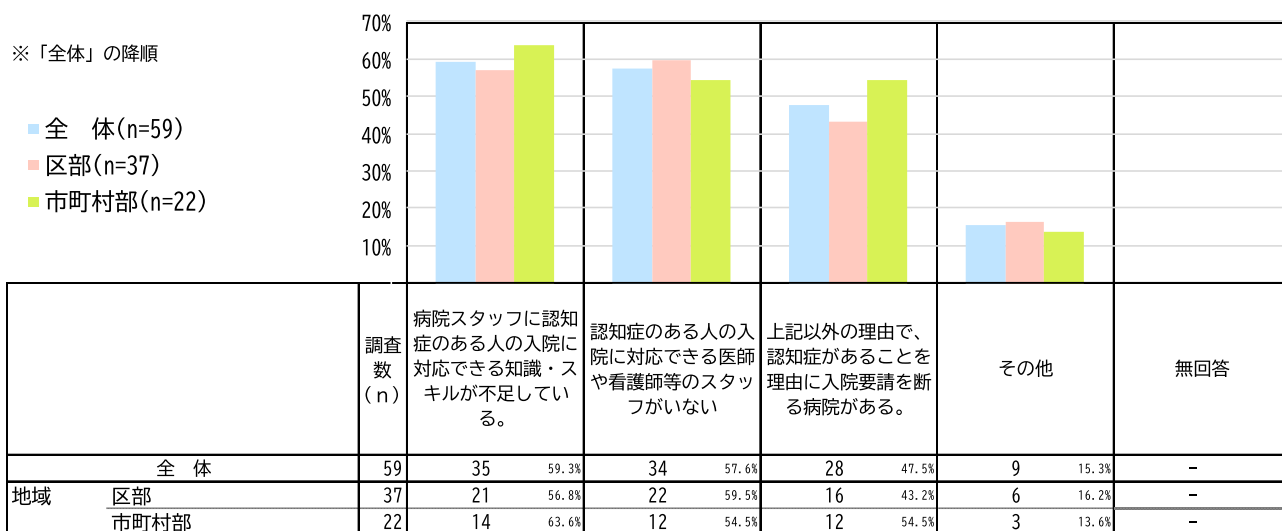
「思う」(62.7%)が最も高く、次いで、「思わない」(37.3%)となっている。



問1で「思わない」と回答した施設に伺います。

問1-1 円滑に入院が行われていない要因は何だと思えますか。(あてはまるもの全てに○)

「病院スタッフに認知症のある人の入院に対応できる知識・スキルが不足している。」(59.3%)が最も高く、続いて、「認知症のある人の入院に対応できる医師や看護師等のスタッフがいらない」(57.6%)、「上記以外の理由で、認知症があることを理由に入院要請を断る病院がある。」(47.5%)の順に高くなっている。

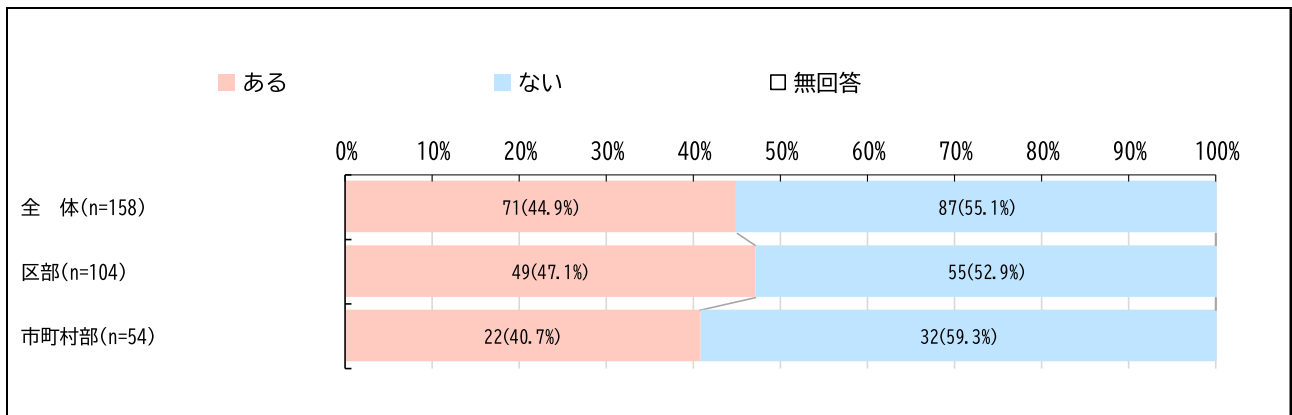


※ 各枠内の数値は回答件数、比率(%)を表す

**【表の凡例】**  
 比較の対象となる項目：n=30以上  
 全体+10ポイント以上 ■ 全体+5ポイント以上 ■ 全体-5ポイント以下 ■ 全体-10ポイント以下 ■

問2 実際に入院調整に困ったことはありますか。(1つに○)

「ない」は55.1%と高く、一方、「ある」は44.9%となっている。

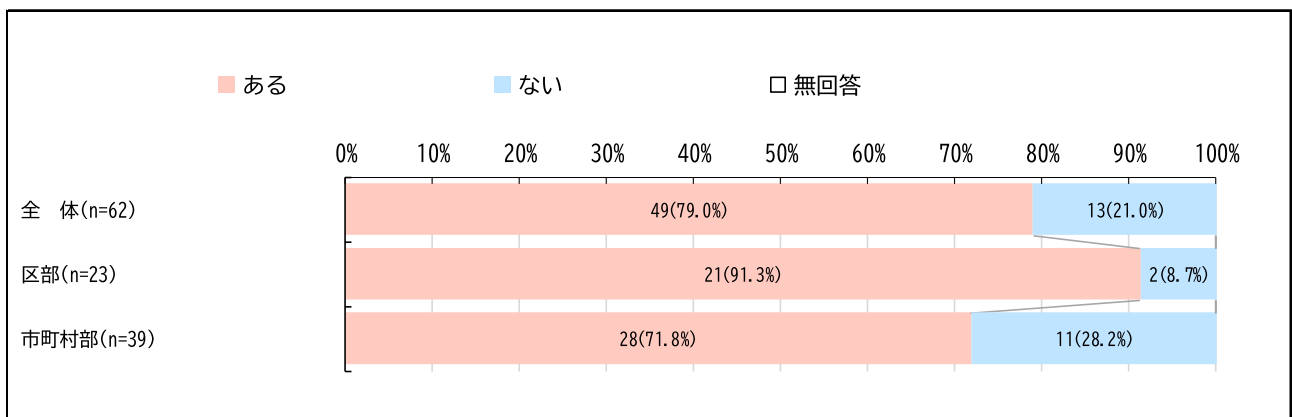


(4) 区市町村調査

ア 地域の認知症患者の医療上の課題

問6 認知症に関する医療・介護の連携上の課題はありますか。

「ある」(79.0%)が最も高くなっている。

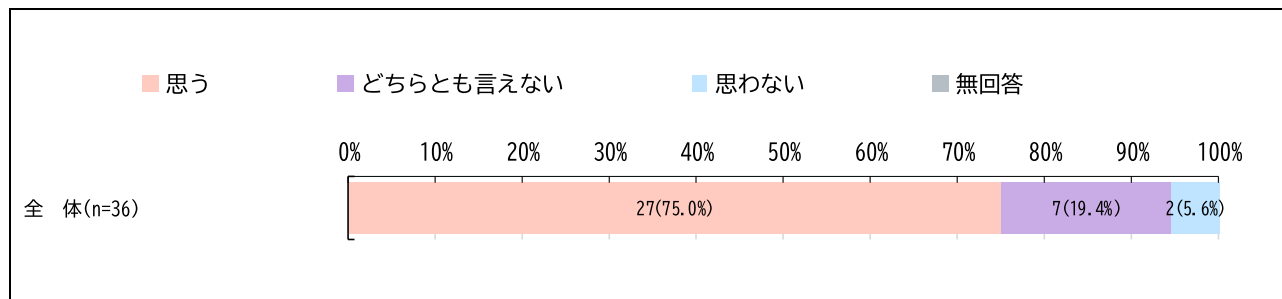


## (5) 当事者・家族調査

### ア ご自身のかかりつけ医について

問1 ご自身のかかりつけ医は、認知症について理解があると思いますか。

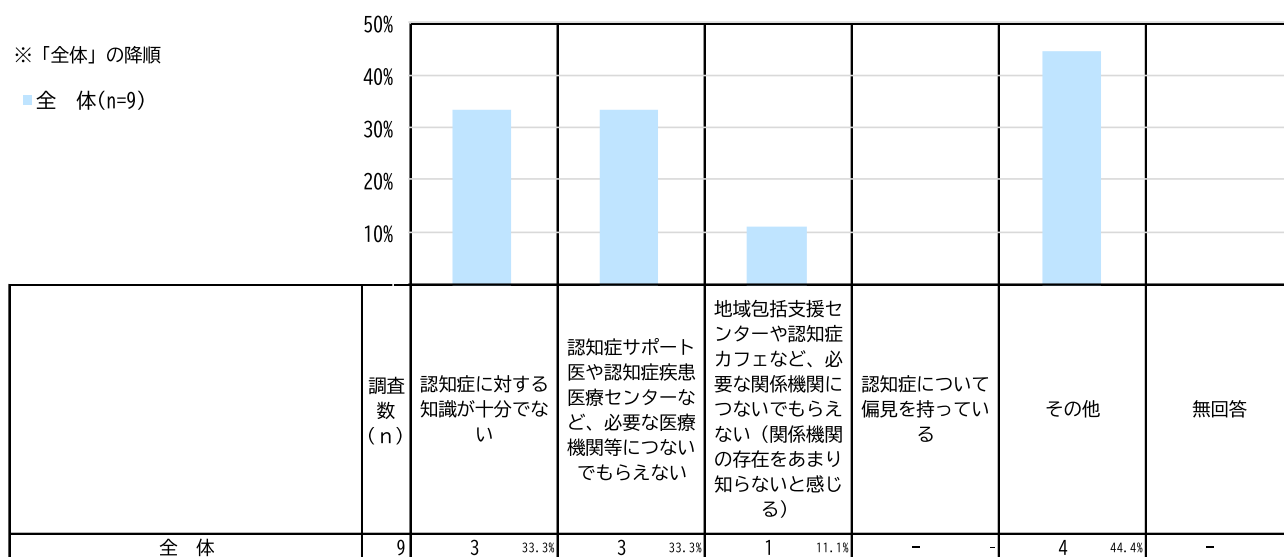
「思う」(75.0%)が最も高くなっている。



問1で「どちらとも言えない」または「思わない」と回答した方に伺います。

問1-1 なぜそう思いましたか。(あてはまるもの全てに○)

「認知症に対する知識が十分でない」・「認知症サポート医や認知症疾患医療センターなど、必要な医療機関等につないでももらえない」(33.3%)が最も高くなっている。

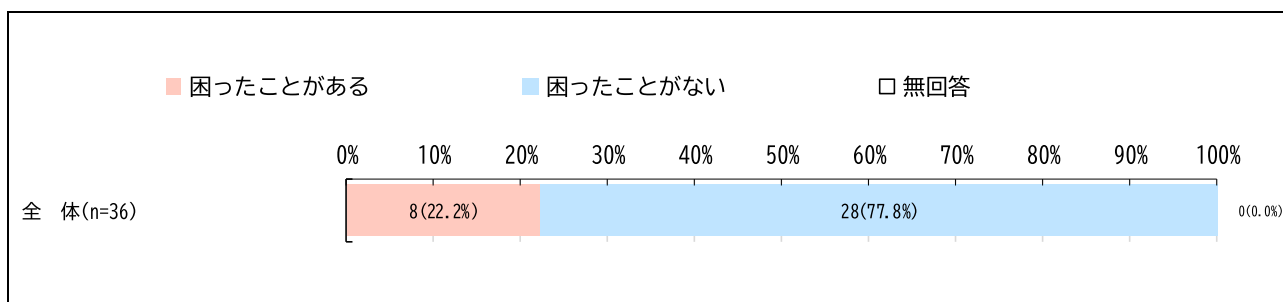


※ 各枠内の数値は回答件数、比率 (%)を表す

## イ 入院先を選ぶとき

問2 病気やケガ等で入院して治療することが必要になったとき、入院先を選ぶに当たって困ったことがありますか。(1つに○)

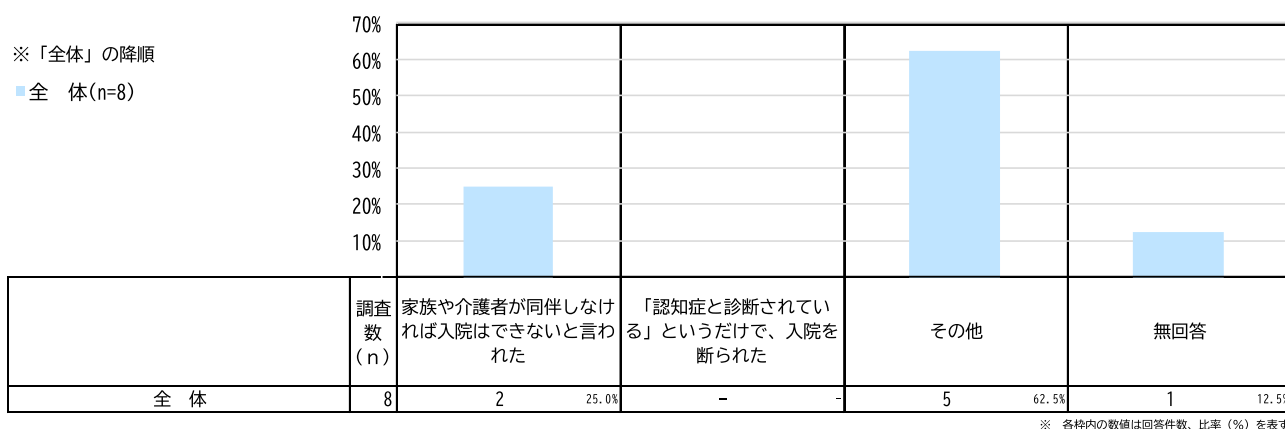
「困ったことがない」(77.8%)が最も高く、次いで、「困ったことがある」(22.2%)となっている。



問2で「困ったことがある」と回答した場合のみご回答ください。

問2-1 どのようなことで困りましたか。(あてはまるもの全てに○)

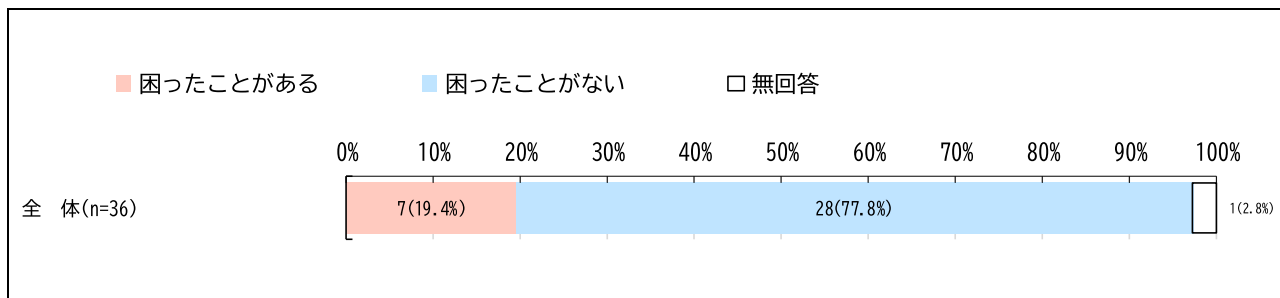
「家族や介護者が同伴しなければ入院はできないと言われた」(25.0%)が最も高くなっている。



## ウ 入院中に治療やケアを受けているとき

問3 病気やケガ等で入院したとき、入院中の治療やケアで困ったことはありますか。(1つに○)

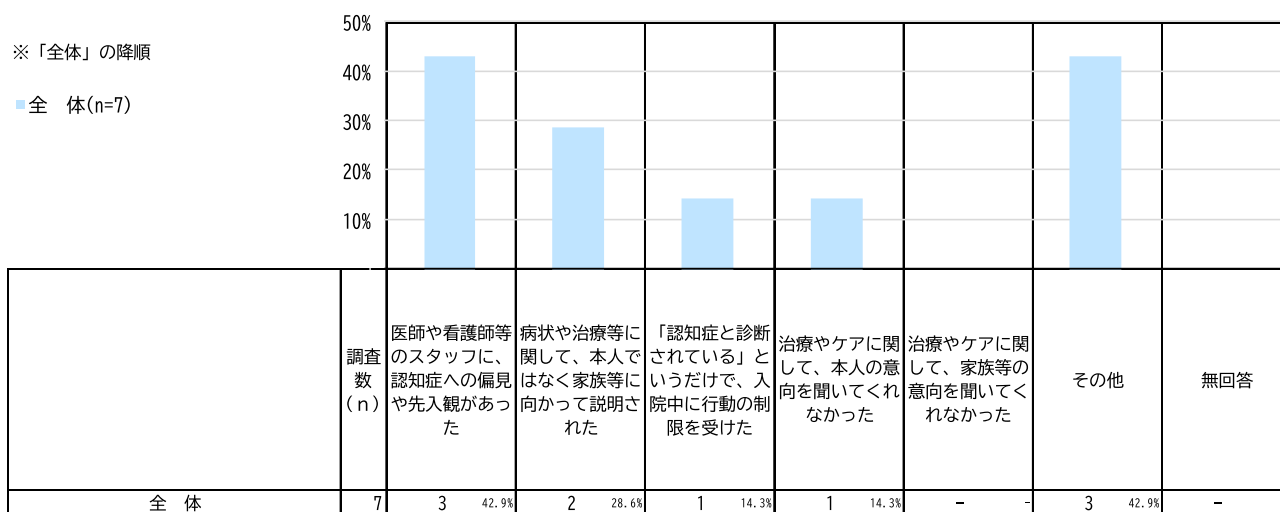
「困ったことがない」(77.8%)が最も高くなっている。



問3で「困ったことがある」と回答した場合のみご回答ください。

問3-1 どのようなことで困りましたか。(あてはまるもの全てに○)

「医師や看護師等のスタッフに、認知症への偏見や先入観があった」(42.9%)が最も高くなっている。

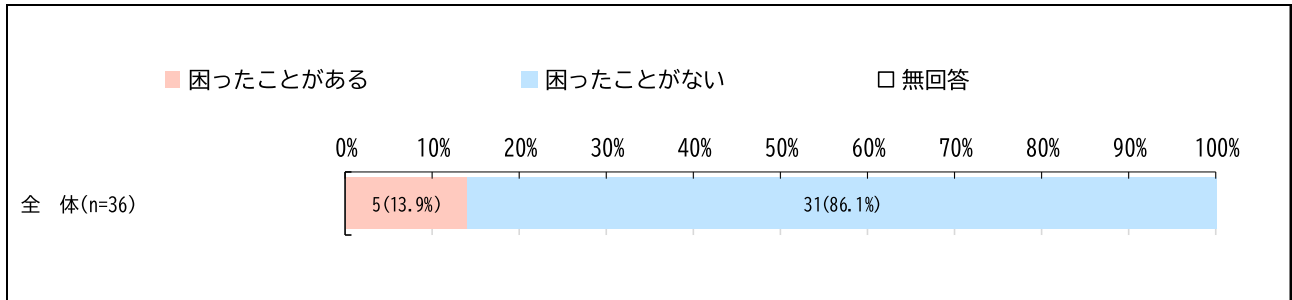


※ 各枠内の数値は回答件数、比率(%)を表す

## エ 退院するとき

問4 病気やケガ等の治療の終了等により退院するとき、困ったことはありますか。(1つに○)

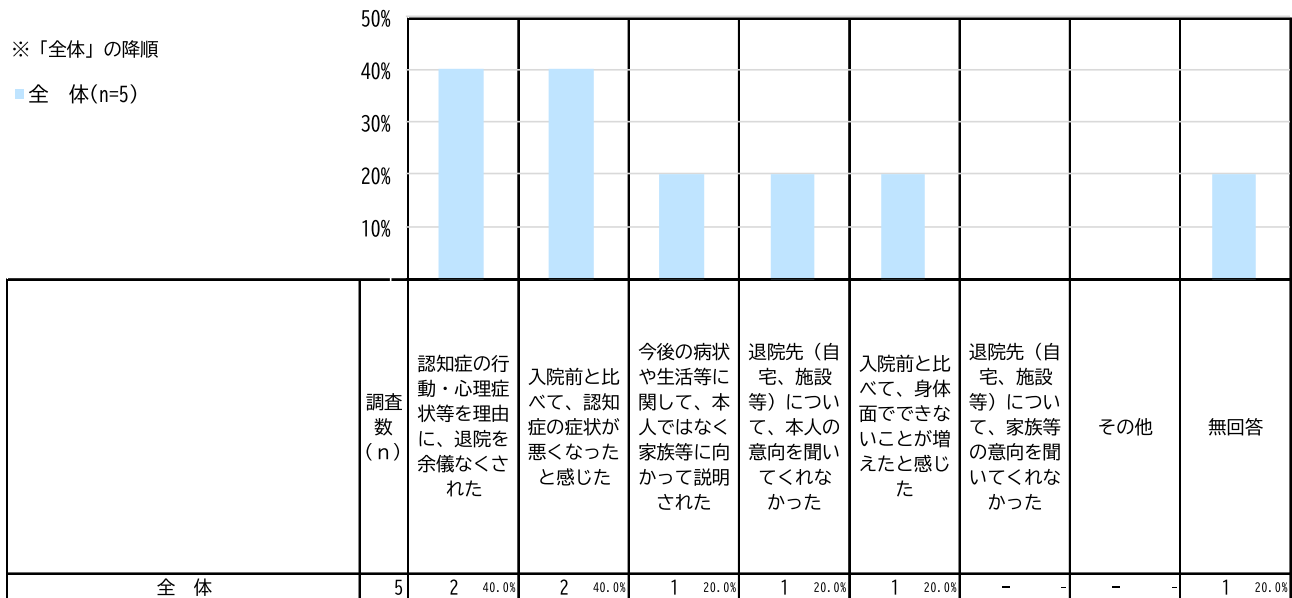
「困ったことがない」(86.1%)が最も高くなっている。



問4で「困ったことがある」と回答した場合のみご回答ください。

問4-1 どのようなことで困りましたか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「認知症の行動・心理症状等を理由に、退院を余儀なくされた」・「入院前と比べて、認知症の症状が悪くなったと感じた」(いずれも 40.0%)が最も高くなっている。



※ 各種内の数値は回答件数、比率(%)を表す

【参考】何らかの医療上の困りごとがある当事者・家族（問1～4の回答結果より）

全体では「ない」（61.1%）が最も多くなっている。

一方で、何らかの医療上の困りごとが「ある」（38.9%）と回答した当事者・家族も、およそ4割となっている。

